

# 野洲川MIZBEステーション 運営方針（たたき台）

2025.08.01

# 目次

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 1. 背景                                   | 1  |
| 2. 野洲川MIZBEステーションの目指すところ                | 3  |
| 3. 野洲川MIZBEステーションのゾーニング                 | 4  |
| 4. 運営の目的                                | 5  |
| 5. エリア別の利活用方針                           | 6  |
| 6. 運営方針を実現するための<br>空間・施設を設計する上で大切にしたいこと | 12 |
| 7. 運営体制のイメージ                            | 13 |
| 8. 野洲川MIZBEステーションの<br>オープンまでのスケジュール     | 14 |

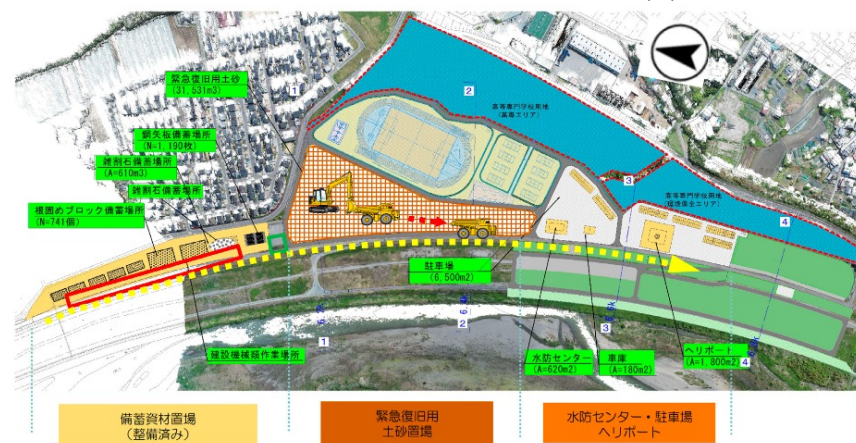
## 1. 背景

## 1. 野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画の国への登録

野洲市では、国土交通省近畿地方整備局と連携し、地域活性化や賑わいの創出に寄与し、災害の際は水防活動拠点として機能する「MIZBE ステーション」と、河川空間とまち空間が融合し、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す「かわまちづくり計画」を一体とした、野洲川MIZBEステーションの整備をめざし、野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画を作成しました。

2024年に「野洲川MIZBEステーション」「野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画」として 国土交通省に登録されています。

野洲川MIZBEステーション平面図



出典：野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画書

## 《かわまちづくり計画》とは

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かした地域の賑わい創出を目指す制度。

## 《MIZBE ステーション》とは

河川防災ステーションの上面などを活用した平時における市町村等の取り組みにより、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションを「MIZBE ステーション」として登録する制度。

## 2. 野洲市総合計画・協働のまちづくりとSDGsの実現を基本姿勢に

第2次野洲市総合計画では、めざす将来都市像として「多様な人々と多彩な自然が調和した、個性輝くにじいろのまち・笑顔あふれるにじいろ都市やす」を掲げ、その実現に向けた基本姿勢として、市民、企業、団体等と連携した「協働のまちづくり」・「SDGsの実現」を進めていくことが位置付けられています。

めざす将来都市像

『多様な人々と多彩な自然が調和した、個性輝くにじいろのまち』

笑顔あふれる にじいろ都市 やす

## 基本姿勢

協働のまちづくり

市民を中心として、行政や事業者、自治会等各主体とまちづくりの目標を共有しながら、お互いを尊重し、信頼し、協力し合う「協働」によるまちづくりを進めます。

SDGsの実現

将来にわたって持続可能なまちを築いていくという横断的な視点のもと、総合計画の各分野において、SDGsとのつながりを意識しながらまちづくりを進めます。

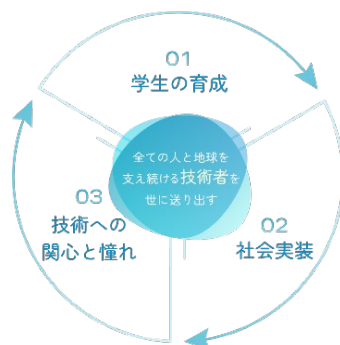
出典：第2次野洲市総合計画【改訂版】

# 1. 背景

## 3. 滋賀県立高等専門学校の整備・2028年4月開校

滋賀県初の県立高等専門学校が、野洲川MIZBEステーションに隣接して整備・2028年4月に開校が予定されています。学校の方針として、地域産業・社会への貢献や、企業や公共団体など、多様な主体が関わり合って新しい発見や学びを得られるような取り組みを目指した学校です。

### すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校



目指すのは、「価値創造力」、「専門性」、「実践力」を兼ね備えた学生の育成。滋賀県立高専では、この3つの能力を培った学生が、新たなモノ・コト・サービスを生み出して社会実装(注釈1)し、次の世代を担う子どもたちが技術への関心と憧れを抱き、将来にわたり「すべての人と地球を支える技術者」を世に送り出すことにつながるという好循環を目指します。

また、技術者育成・交流の場の中心として地域産業・社会に貢献し、学生だけではなく企業や公共団体など、多様な主体が関わり合って新しい発見や学びを得られるように取り組みます。

(注釈1) 社会課題解決のために技術や研究成果を応用、展開していくこと

### 概要

- 学生数：120名／学年
- 5年制
- 地域特性を活かした学び
  - 企業等との連携・共創、異分野の学び・研究との共創を構築
  - 野洲川MIZBEステーションを整備することから、防災・減災、自然環境保全など、国・市とも連携した学びを実現

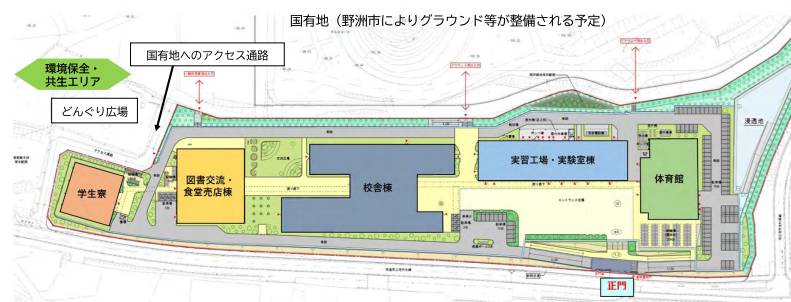
- 4つの専門コース



### キャンパスのコンセプト

- 地域に溶け込み、地域から誇りと愛着を持たれるキャンパス
- 現代的・実質的・コンパクト

### 高等専門学校キャンパス配置計画



### 高等専門学校キャンパス全景イメージ



出典：滋賀県立高等専門学校WEBサイト

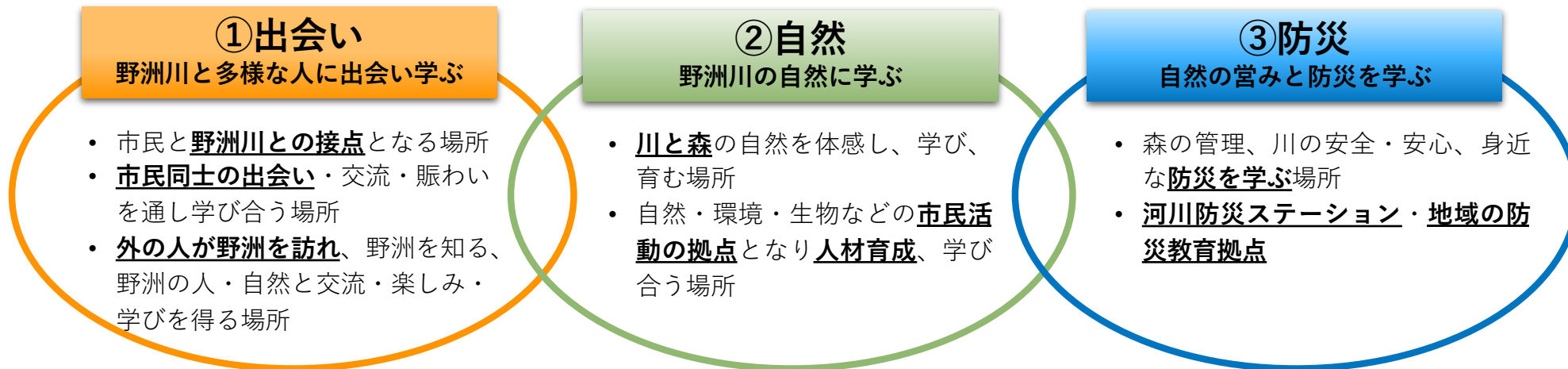
## 2. 野洲川MIZBEステーションの目指すところ

野洲川MIZBEステーションは、野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画、市の総合計画や滋賀県立高等専門学校の整備などの背景を踏まえ、野洲川MIZBEステーションができることで、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなるために、『市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む「学び」の拠点』を目指すところとします。



### 野洲川MIZBEステーションの目指すところ

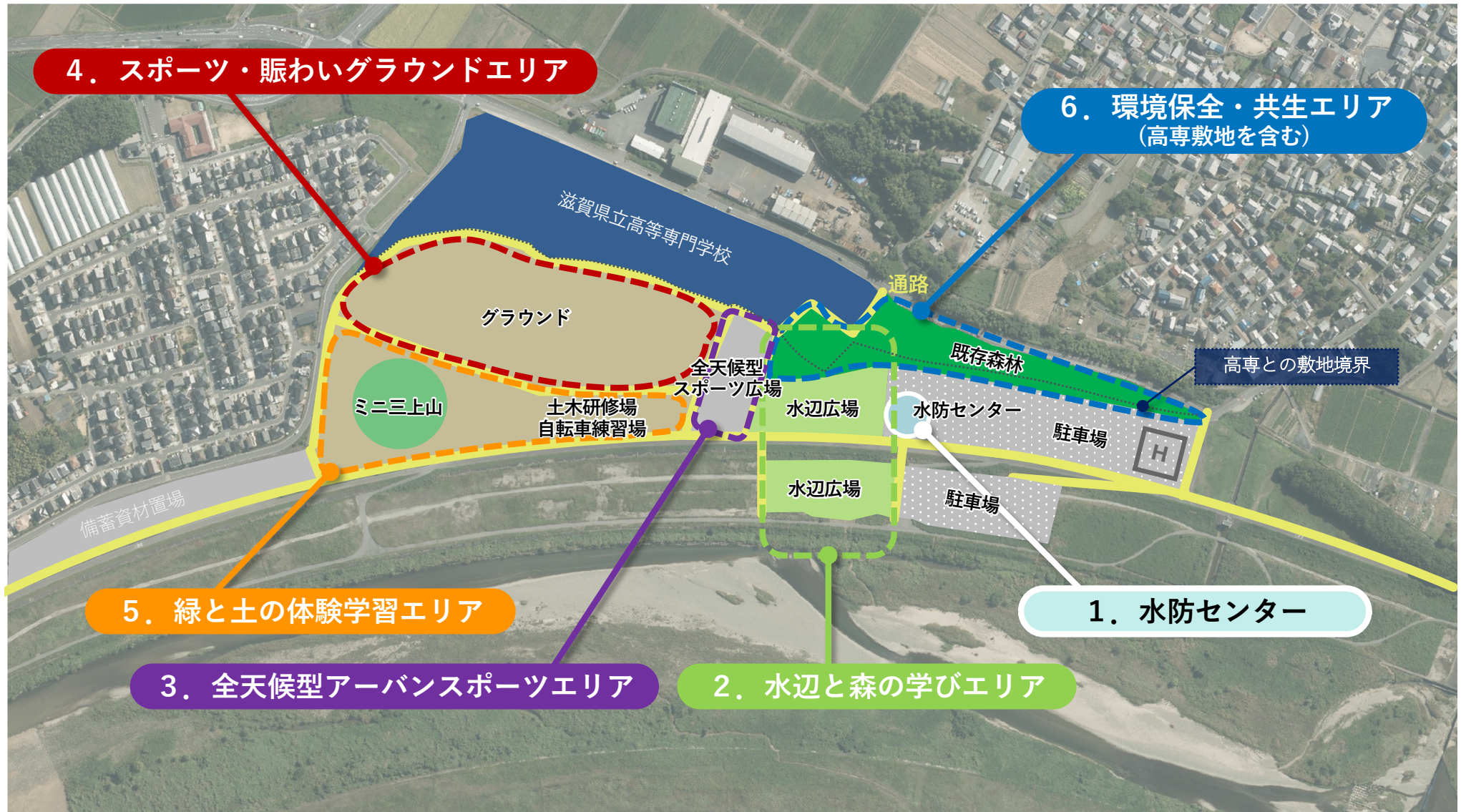
## 市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点



野洲川MIZBEステーションができることで  
子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる

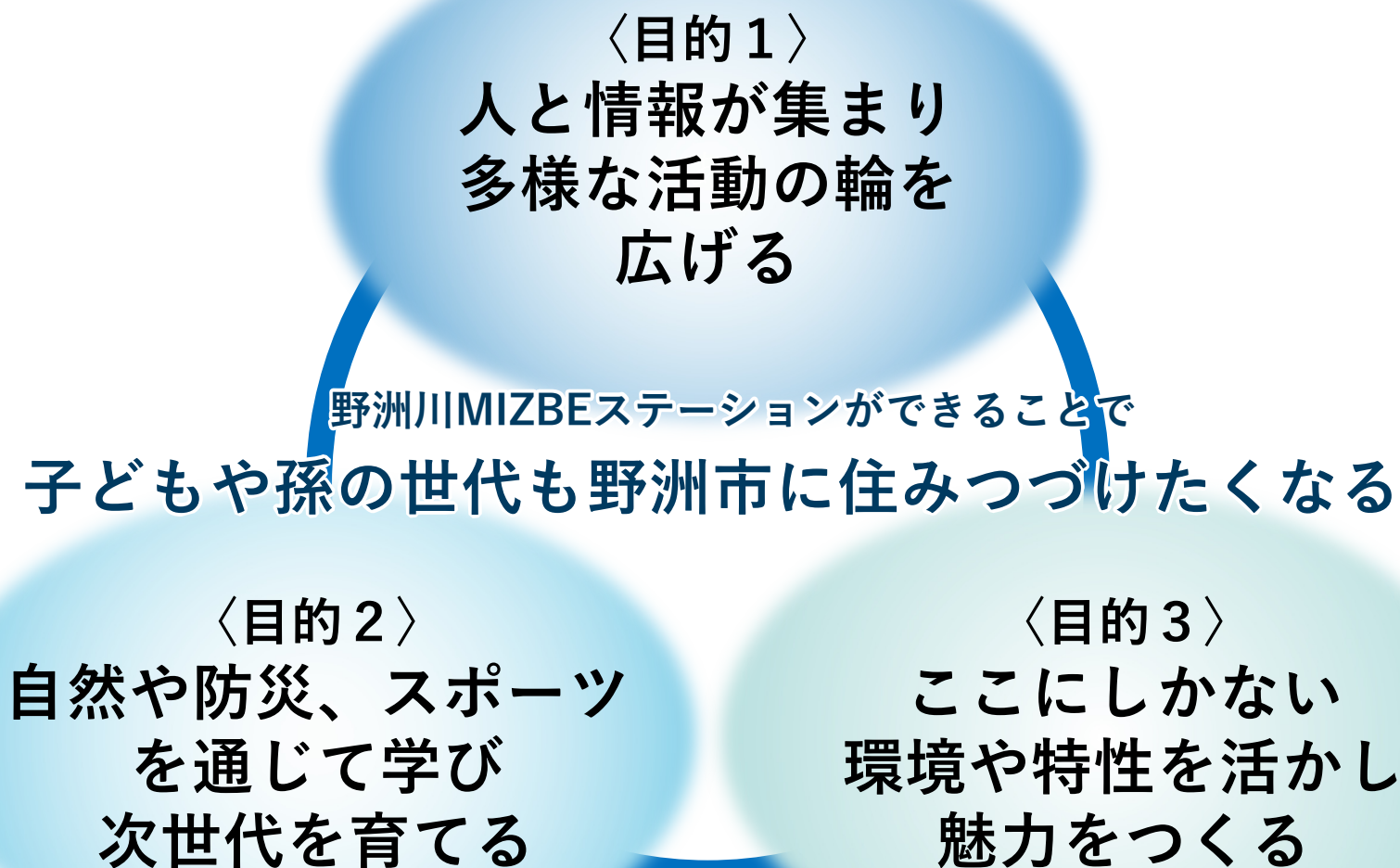
### 3. 野洲川MIZBEステーションのゾーニング

野洲川MIZBEステーションは、防災拠点としての役割を担いながら、日常は市民が集い『市民とともに作る、人と自然の好循環を育む「学び」の拠点』として、それぞれの場の特性を活かしたエリアをゾーニングしました。



## 4. 運営の目的

野洲川MIZBEステーションを「市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点」とし、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる野洲市を実現するために、次の3つを目的として運営することが大切だと考えています。

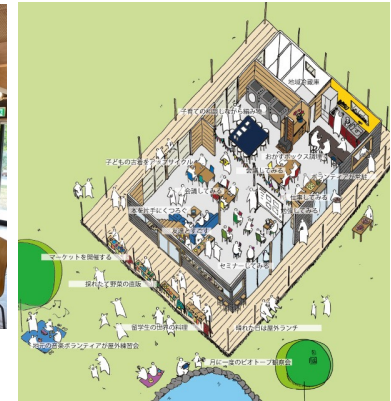


# 5. エリア別の利活用方針

## 1. 水防センター

### 方針

さまざまな人・団体等が集う活動の拠点、非常時には水防拠点としての役割を担う、MIZBEの学びの拠点施設



事例：泉北ラボ（カフェ、コワーキングスペース、まちライブラリーなど）

<https://semboku-fund.org/about-sembokulab/>

| アイデア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 設備など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ハードル・課題                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>企業やセンター職員が市民への防災教育</li> <li>高専生が小中学生にプログラミングを教える、ドローンを使用</li> <li>様々な人が講座やワークショップ、フリーマーケット、活動場所、練習場所などに使う</li> <li>防災教育（テント設営・非常食体験・災害体験・歴史学習）</li> <li>防災機能の確保</li> <li>オープンスペースなシェアオフィスで野洲の団体がつながれる</li> <li>3Dプリンターを常備、AIロボットを活用など最新テクノロジーに触れられる</li> <li>備品レンタル事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>活動を支える設備がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>雨天や暑さ、寒さを気にせず使える広い室内</li> <li>道具を保管する広い倉庫がある</li> <li>テーブル、椅子が十分ある</li> <li>プロジェクター・スクリーン・マイクがある</li> <li>自由に使えるWi-Fiがある</li> </ul> </li> <li>● <b>イベント時に使える道具や設備がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワンタッチテントの常備</li> <li>イベント時に荷物を置いておけるバックヤードがある</li> </ul> </li> <li>● <b>防災時に備えた設備がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線の様な放送設備、緊急気象情報の表示板など</li> </ul> </li> <li>● <b>交流を促す場がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>素敵なカフェがある</li> <li>広い部屋があり、必要に応じて仕切って柔軟につかえる</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の施設管理</li> </ul> |

# 5. エリア別の利活用方針

## 2. 水辺と森の学びエリア

### 方針

森・広場・川の一体的な空間を活かし、自然との触れ合い、環境や防災について実践的に学べるプログラム等を実施し、野洲川の自然を活かして学ぶ



野洲川北流域自然の森,  
野洲川MIZBEフィールドワーク

事例：うしづま水辺の楽校,  
牛妻地区かわまちづくり

<https://lovely-tomato.wixsite.com/papa007>

### アイデア

- ・ 夏祭り：年に1回
- ・ 3万人規模の花火大会
- ・ マルシェ：年に4回
- ・ 様々な〇〇市場、〇〇まつり、〇〇大会
- ・ 自然観察、キャンプ体験
- ・ トレーニング機器や遊具の設置
- ・ 防災の学びにつながるプログラム（着衣泳、水の中で歩く体験、安全に川であそぶための講習など）
- ・ 水上安全講習（ライフジャケットの着用など）

### 設備など

- 水辺の活動のための設備がある
  - ・ 森・広場・水辺がつながる
  - ・ 川の近くに水道がある
  - ・ ライフジャケット、救命胴衣等の道具がある

### ハードル・課題

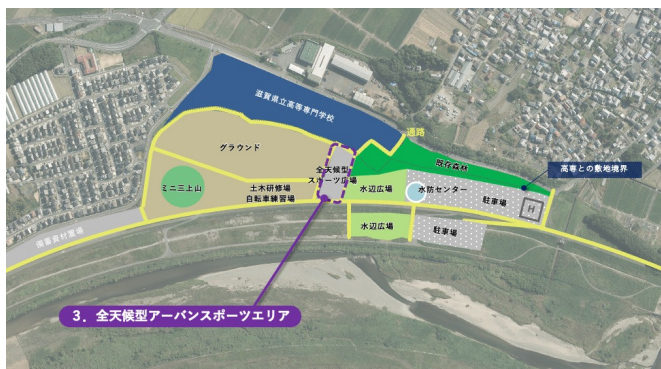
- ・ アクティビティを行うには水位が低い
- ・ 高水敷エリアは制約がある。

## 5. エリア別の利活用方針

### 3. 全天候型アーバンスポーツエリア

#### 方針

アーバンスポーツを中心にスポーツに親しみ学ぶと共に、全天候型の広場を活かしたイベント等の賑わい・学び・交流を通して学ぶ



事例：神戸みなとの森公園

<https://kobe-machiguide.com/park/minatonomori-park/>



事例：アーバンスポーツ(都市型スポーツ)施設, 太陽工業

#### アイデア

- 60組程度の3on3大会
- マーチングの練習
- ニュースポーツやレクリエーション
- スポーツ設備を移動させて、マルシェ等のイベント活用

#### 設備など

- いろいろな使い方ができる
  - 移動式のステージやコートがある
  - 観客席が作れる
  - 控室、救護・ミーティングができるトレーラーハウス
  - コンテナ式のシャワー・トイレ
  - 移動可能な仕切り
- 利用しやすい設備が整う
  - ナイター照明手洗い場がある
  - 電源がある
  - 用具を保管できる倉庫
  - 屋根がある

#### ハードル・課題

- 名称を考える  
(アーバンスポーツ以外の使用も想定)
- フェンスやネットなど仕切りをどうするか
- 有料／無料

# 5. エリア別の利活用方針

## 4. スポーツ・賑わい・グラウンドエリア

### 方針

高専のグラウンド利用をはじめ、  
広々としたグラウンドを活かし、  
様々なスポーツに親しみ学ぶと共に、  
広いフィールドを活かしたイベント  
等の賑わい・交流を通して学ぶ



事例：マルシェ，  
淀川アーバンキャンプ



事例：イナズマロックフェス  
メインステージ ©イナズマロック フェス実行委員会



事例：ペタンクを楽しむ人々,パリ



モルック

### アイデア

- 多世代が楽しめる市民向けスポーツ大会（鬼ごっこ、モルック）
- 50～100人規模のスポーツ大会（サッカー、テニス、スケートボード、バレー、バスケ、BMX、ドッジボール、ゴルフなど）
- 10万人規模の音楽フェス
- 教室利用（サッカー、バスケ、テニス、バレー、ラグビー、陸上、ゴルフ、パルクールなど）
- 健康づくり（リハビリ、トレーニング、ヨガ、ノルディックウォーキング）
- ペットも一緒に楽しめる（ドッグラン、ドッグヨガなど）
- 学校の体育祭利用

### 設備など

- いろいろな使い方ができる
  - 観客席が作れる
  - 控室、救護・ミーティングができるトレーラーハウス
- 利用しやすい設備が整う
  - ナイター照明
  - 芝のグラウンド
  - 自動ライン引きの機械
  - 電源がある
  - 用具を保管できる倉庫

### ハードル・課題

- 5、10年後の維持管理
- 刈った芝を処理する仕組み
- 夏の暑さ
- 日陰がないので滞在しづらい
- 備蓄土砂エリアのため制約がある

# 5. エリア別の利活用方針

## 5. 緑と土の体験学習エリア

### 方針

土取場を活かし、ミニ三上山や土木研修場、スポーツ広場を使い、自然や防災について体験型で学ぶ



事例：ラジコン式ショベルカーの操作訓練，高松市  
<https://www.ksb.co.jp/bousai/news/n-201125/>



事例：ドローン練習所，東京都荒川  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC14AR40U1A211C2000000/>



ミニ三上山からの眺望



事例：椿グリーンパーク，三重県  
<https://tsubaki-gp.com/info/mbx>



事例：こどもの森，東京都練馬区  
<https://nerima-kodomonomori.com/>



| アイデア                                                                                                                              | 設備など                                                                      | ハードル・課題                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>防災体験</li> <li>土木研修など</li> <li>ミニ三上山で芝すべり</li> <li>レクリエーション</li> <li>星空体験、キャンプなど</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ三上山に登った人が学びにつながる工夫が必要</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄土砂エリアのため制約がある</li> </ul> |

## 5. エリア別の利活用方針

### 6. 環境保全・共生エリア（高専敷地を含む）

#### 方針

高専と連携しながら、森の環境を守り・育み次世代に豊かな環境を受け継ぐと共に、保全・共生の活動や環境学習等を通して学ぶ



事例：チャイムの鳴る森、奈良県

<https://chai-mori.com/>



やす緑のひろば

<https://midorinohiroba.shiga-saku.net/>

#### アイデア

- ・ 自然インストラクターが、こども自然体験プログラム
- ・ NPO、企業等が、小中学生と動植物の生態・環境調査
- ・ 自然保全団体が、中高生に森や河辺の整備体験
- ・ やす緑のひろばと子育てサークルが、親子で森の観察会
- ・ こども主体で遊べる場所に

#### 設備など

- 憩いの場がある
  - ・ 木がたくさんあり、木陰がある
- 森の維持管理・利用のための設備がある
  - ・ 水栓、電源がある

#### ハードル・課題

## 6. 運営方針を実現するための空間・施設を設計する上で大切にしたいこと

野洲川MIZBEステーションを活かすことで、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる野洲市としていくために、ハード・空間を設計する上で大切なことは、次の7つのポイントです。

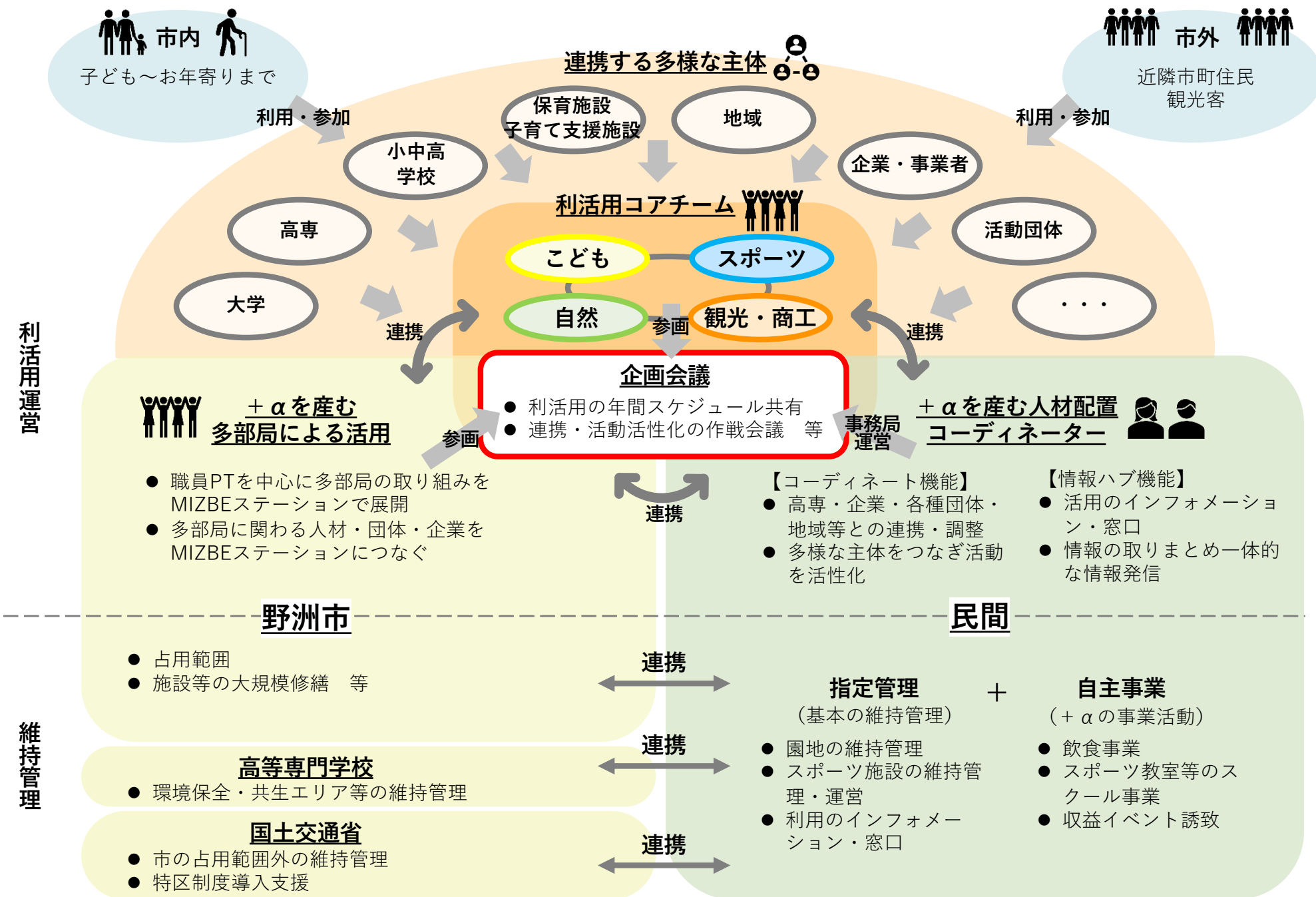
### 空間デザイン

- ユニバーサルデザインで子ども、大人、高齢者、障がいの有無に関わらず、誰もが使いやすい空間設計
- 野洲市民が誇れる魅力あるランドスケープ・建築設計（水辺の心地よさを感じられる空間、行ってみたくなる空間、撮影やロケーションに利用されるような魅力ある空間 等）
- エリアの往来がしやすく、野洲川MIZBEステーションとしての一体感があり、複数のエリアを一体的にも使えるような空間整備
- 夜間の利用を支える適度な照度と魅力ある照明・ライトアップ計画

### 設備・機能

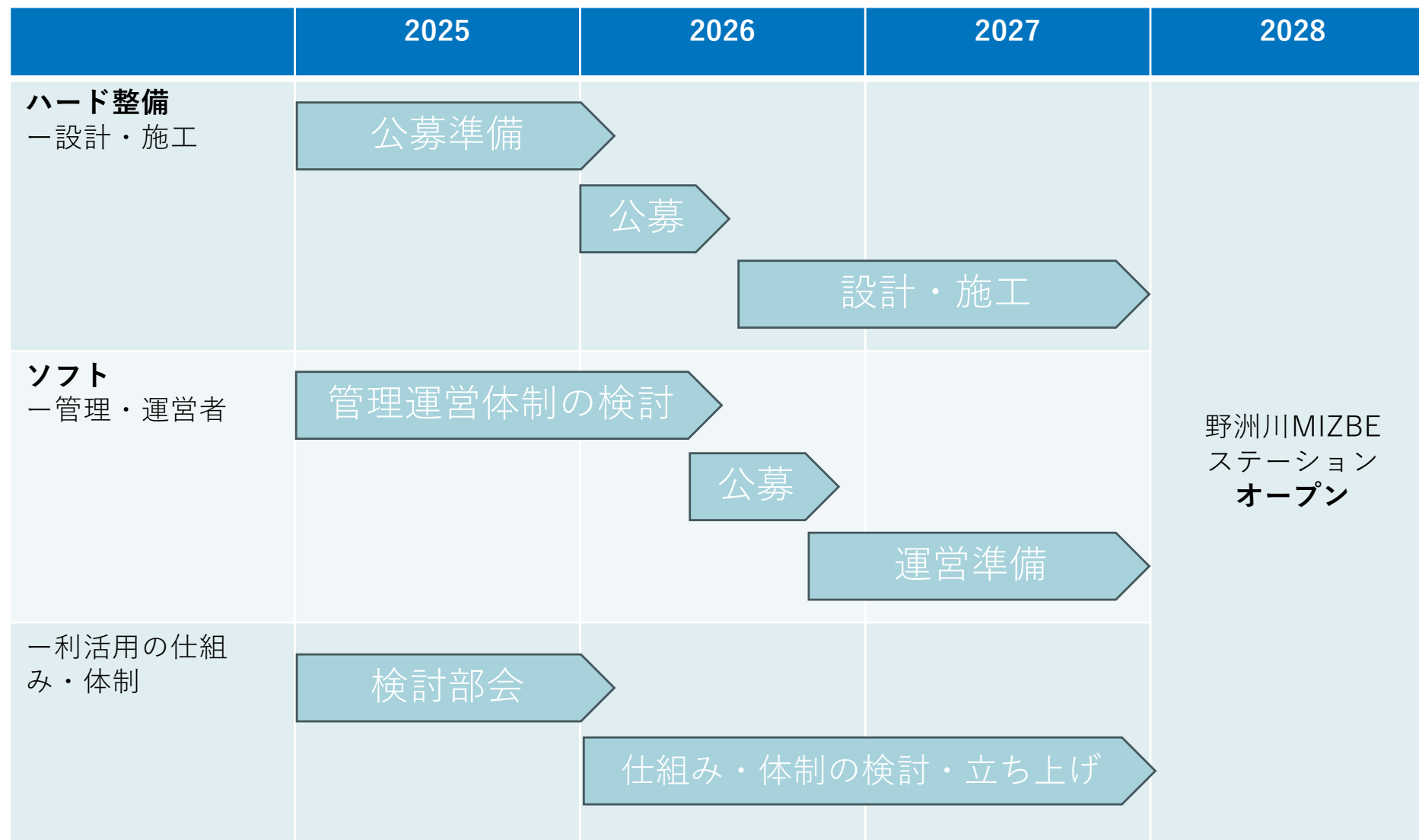
- 雨天時や気温を気にせず使える十分な室内空間を確保し、雨天時対応や熱中症対策のための工夫がある（大屋根、緑陰、ミストシャワー等）
- サステイナブルな設備を採用することで環境にもコスト面でも負荷を軽減する（井戸水の活用、自己処理型水洗トイレなど）
- AI、ICT、IoT等のスマート技術活用による環境負荷の軽減や、効率的な運営ができる

# 7. 運営体制のイメージ

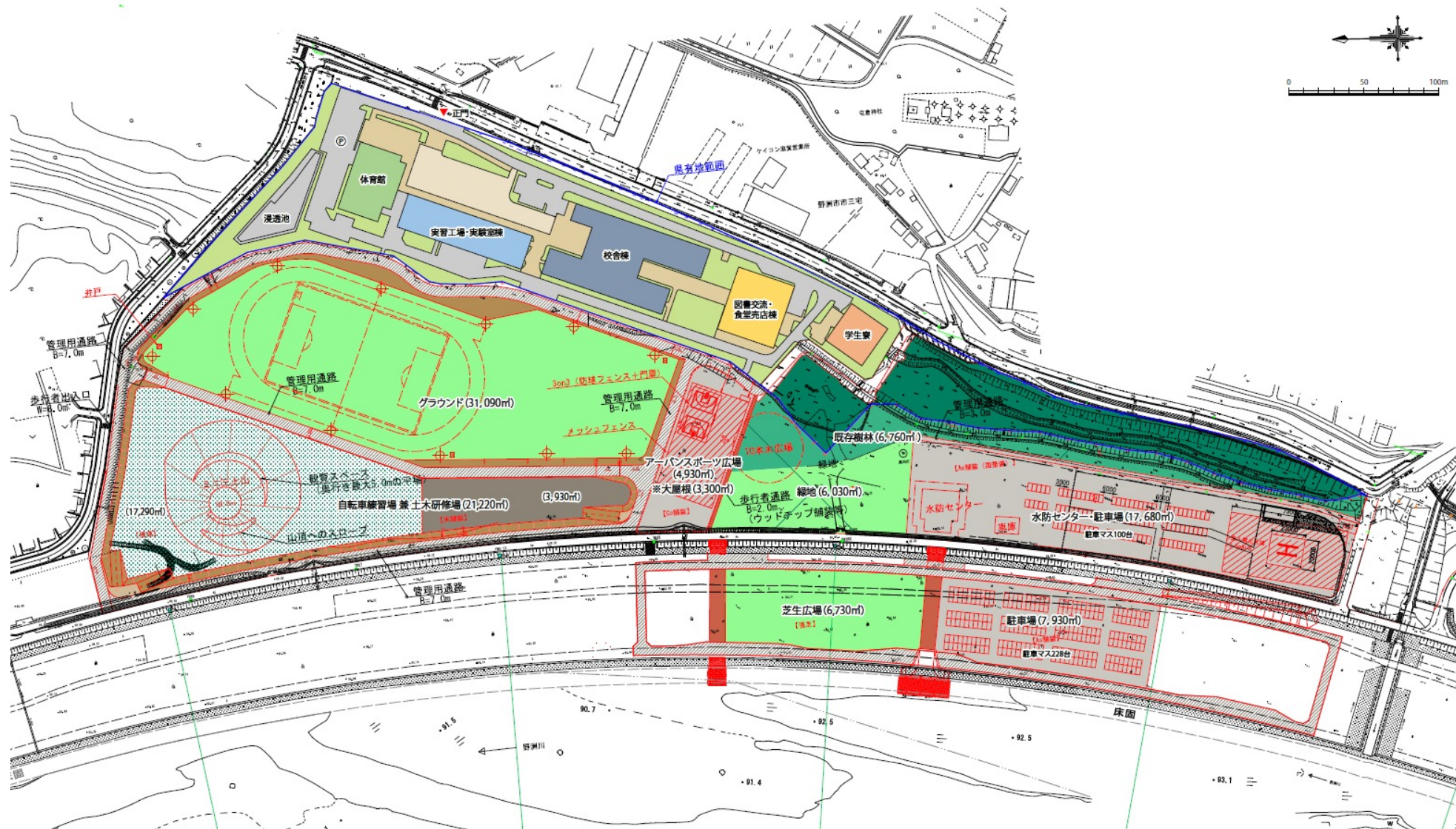


## 8. 野洲川MIZBEステーションのオープンまでのスケジュール

2028年の野洲川MIZBEステーションのオープンに向けて、今後の設計・整備などのスケジュールを以下に示します。



# 別添資料 1 野洲川MIZBEステーションレイアウト（案）



※MIZBEステーションのレイアウトは現在検討中であるため、今後の検討により変更となる場合があります。  
 また、滋賀県立高等専門学校レイアウトについても基本設計から引用しているものあり、内容が変更される場合があります。  
 引用元：滋賀県立高等専門学校施設概要（基本設計）について  
[https://shiga-kosen.usp.ac.jp/preparation/preparation-rp/doc/facility\\_overview-20250626.pdf](https://shiga-kosen.usp.ac.jp/preparation/preparation-rp/doc/facility_overview-20250626.pdf)

## 別添資料2 水防センターの機能・ボリューム（案）

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 水防センター | 650㎡程度<br>・水防センター機能＋平常時活用施設 |
|--------|-----------------------------|

| 室・機能名    |                               | 広さ     | 人数目安   |        |
|----------|-------------------------------|--------|--------|--------|
| 水防センター機能 | 平常時活用施設                       |        | スクール形式 | シアター形式 |
| 水防資機材    | —                             | 16.0㎡  | —      | —      |
| 備蓄庫      | —                             | 34.0㎡  | —      | —      |
| 水防司令室    | 会議室                           | 18.0㎡  | 6      | 12     |
| 水防団待機室   | 会議室・活動室                       | 76.0㎡  | 25     | 50     |
| 一時避難場所   | 屋内活動スペース                      | 98.0㎡  | 32     | 65     |
| —        | 半屋内活動スペース                     | 144㎡   | 48     | 96     |
| 炊き出し     | カフェスペース<br>※事業者ヒアリング等を踏まえて要検討 | 42.0㎡～ | —      | —      |
| 男性トイレ    | 男性トイレ                         | 9.0㎡   | —      | —      |
| 多目的トイレ   | 多目的トイレ                        | 6.8㎡   | —      | —      |
| 女性トイレ    | 女性トイレ                         | 9.0㎡   | —      | —      |
| —        | 常駐管理室                         | 18.0㎡  | 6      | 12     |
| —        | 倉庫                            | 28.4㎡  | —      | —      |
| —        | シャワー室                         | 20㎡    | —      | —      |

- スクール形式（机＋イスを前向きに配置）：2～3㎡／人
- シアター形式（イスのみ、前向き）：1～1.5㎡／人

【レイアウトイメージ】

